

## 私たちの知らない『野寄』 - 引き継がれる村、野寄 船引泰造さん（六〇歳代）

著者	船引 泰造, 村上 雄一, 甲南大学久保ゼミ, 久保はるか
雑誌名	「大学周辺地域の歴史を知る」シリーズ
巻	1
ページ	21-23
発行年	2017-05
URL	<a href="http://doi.org/10.14990/00002913">http://doi.org/10.14990/00002913</a>

## 引き継がれる村、野寄

船引泰造さん（六〇歳代）

### 一 昔の野寄

—子供の頃やだんじりのことについて聞かせていただけますか？

小学校低学年の頃は、この辺には空き地がいっぱいあったので、三人か四人くらい集まったら三角ベースやったり、甲南大学の西校舎のグラウンドで野球をやったりして遊んでいましたね。

それと、野寄の上の方に甲南大学のプールがあったので、水泳部の練習が終わってからよく泳がせてもらっていました。

甲南大学の本校舎のグラウンドにも遊びに行っていました。大学のサッカー部がボールを仕舞わずにグラウンドに置いたままにしていたので、中学の帰りにそれを蹴って帰ったりしていました（笑）。

—今では、運動部は六甲アイランドで部活をしていますけど、当時はこっちでやっていたんでしょか。

そうですね、当時は今ほど校舎が建っていないなかったのでグラウンドもあって広々としていて、そこで子供らも遊んでた、遊ばしてもらっていたという感じです。

遊びというと、よく住吉川にカエルとか水生昆虫とかを捕りに行って遊んでました。この住吉川にはカジカガエルという声の綺麗なカエルがいたので、それをよく捕っていました。

その時は今みたいな遊歩道はなくて、川には大小の石がたくさん転がっていて、水中の石には苔が生えてつるつと滑るような感じでした。石をひっくりかえしたらカエルの卵がいっぱいあったり。ただ、上流の方には河川敷に家が建ってまして、その辺から汚水とか石鹼とかを垂れ流しに

というわけではなかったですね。

初めて野寄にだんじりが来たときはすごうれしかったです。すごうれしかったんですけど、少し小さかったのと、中古だったので彫刻なんかかもうひとつかなという印象でした。その後、二回ほど大改修して、綺麗で大きな今の形になりました。

だんじりの影響もあってか、盆踊りも次第に規模が大きくなってきましたね。地域としてみんな盛り上げていこうとなったきっかけがだんじりだったと思います。

### 三 船引さんの想い

—周辺地域の特徴について、船引さんが個人的に思われていることはありますか？

昔からこころへん、自分たちの地域のことを「村」といつているんですよ。できるだけそういう関係は残していきたいなと思いますね。交流が少しでも盛んになって、顔見知りになつたらあいさつできるような関係が増えればいいなと考えています。

あと、盆踊りもだんじり祭りも、住民全員から

—当時川で魚はとらなかったのですか？

魚はいましたけど、素早いから子供では捕れなかつたです。赤い斑点のついた魚とか鰻とか、鰻は大人が夜中に仕掛けを張って捕っていました。ほかには大きなズガニもおりましたね。

それと悪い遊びといったら、今は売っていないですけどドンパンというのがありまして、それを川の中で投げ合って手榴弾遊びをしていました。

### 二 だんじり

—だんじりが初めて野寄に来たとき、何か感じることはありましたか？

子供の頃には、住吉のだんじり祭りによく連れて行ってもらっていたんですけど、昔の住吉のだんじりは黒くて汚く見えたのと、霊柩車みたいだったので、子供の頃はあまり好きじゃなかったんです。住吉神社の夜店に行くのが好き

ではないですけど地域の皆様にご祝儀をいただいて運営をしているんですが、楽しい盆踊りだいいお祭りだということになれば、ファンも増えてくれるんじゃないかと思ってます。だんじり祭りではお弁当や子供さんのお菓子を配ったりもしていますので、喜んでくれる大人の方や子供さんもおられると思いますし、そういう事を通じてでも皆との関わりが増えればいいかなと思っています。

—そういうコミュニケーションや関わりが持てるという意味で村ということでしょうか？



船引さん 11月24日撮影

—そういうことですね、昔は人口が少なかったのですが、これかということも今よりもっと把握できたかと思えます。野寄村で困るのが、お店が少ないということなんです。岡本は駅の方に行ったら店がたくさんありますけれども、西岡本

の方は酒屋さんとタバコ屋さん二軒くらいですかね。ご飯を食べに行こう飲みに行こうといつてもお店が近くにないんですね。そのような意味では不便といえば不便ですけど、そのかわり車も少ないですし、ゆったりしてるのがいいところですね。

—最後に、この野寄地域がどのようになってほしいかという船引さんの思いを教えてください。

祭りなどの伝統はこのまま若い人に引き継いでいってもらって、さっき言ったような「村」の状態を今後も続けていってほしいですね。それがこの野寄での行政の言う「安心安全なまちづくり」の一つかなと思っています。

—そういう地域やコミュニケーションを繋いでいって、今の状態をしっかりと残すということですか？

そうですね。

取材日 二〇一六年 一月二四日

編集 村上雄一